

## 2013年センター報告・日誌

### 一般貴重書保存事業

平成25年度より一橋大学後援会より奨学寄付金の助成を受け、一般貴重書の保存修復作業を行っている。ここで一般貴重書と呼んでいるのは、1850年以前に刊行された洋図書で、一橋大学で購入した貴重書と、佐野、村瀬、上田、Lexis、青山、良知、三浦、Möller、外池、中山、竹下、大塚、村瀬、小場瀬、藤井、石原、山内、鳴海等の文庫に所属する図書のうちから原則として1850年以前に刊行された図書を抽出したものの総称である。建学の最初期から収集されてきた資料を含むコレクションであり、内容は本学の長年にわたる学問研究の歴史的蓄積を反映して社会科学、人文科学の極めて広い範囲に及ぶ。「一般貴重書」は経年による葎材や製本構造の劣化、関東大震災や戦時中の疎開など数度の移動によるダメージ、過去大量に日本で行われた再製本材料の酸性劣化など、長期保存上の多くの問題を抱えている。また、収集の経緯が様々であることを反映して、劣化状態が一律でないことが特徴である。そのため、資料個々の状態を悉皆的な調査によって個別に把握し、適切な保存措置をとることが、今後の長期的保存を図る上で喫緊の課題である。こうした保存修復作業は、製本家・書籍修復家からの指導を受けながら、センター内に設置されている貴重書保存修復工房のスタッフにより行われている。本事業は5か年計画として実施される予定である。

### 科学研究費補助金事業（1）

平成23年度より科学研究費補助金の助成を受け（「西洋社会科学古典資料の書誌学的調査に基づく印刷地推定法に関する実証的研究」、基盤研究（B）、平成23年度～25年度、課題番号：23330066、研究代表者：山崎耕一）、社会科学古典資料センターが所蔵する1530年から1800年に刊行されたすべての資料を対象に、古版本の書誌学的特徴と印刷地との関係についての調査を行っている。本事業は平成25年度いっぱい完了する予定である。

### 科学研究費補助金事業（2）

平成24年度より科学研究費補助金の助成を受け（「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」、挑戦的萌芽研究、平成24年度～26年度、課題番号：24650125、研究代表者：江夏由樹）、社会科学古典資料センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などに含まれる17～19世紀の西欧人がロシア・東アジア各地を旅行した際の記録である書物について、内容分析を行っている。

### 科学研究費補助金事業（3）

平成24年度より科学研究費補助金の助成を受け（「ロブリエール家文書を取り巻く世界—フランス貴族所領経営と領主文書の謎を解く」、挑戦的萌芽研究、平成24年度～26年度、課題番号：24652150、研究代表者：大月康弘）、社会科学古典資料センターが所蔵する『ロブリエール家文書』の分析を行っている。『文書』は、中世後期からアンシャン＝レジーム末期までの所領管理の記録群として注目に値するものであり、これにより14世紀後半～18世紀末のフランス所領経営の実態解明が期待される。

#### 科学研究費補助金事業（４）

平成 24 年度に引き続き、日本学術振興会の平成 25 年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」事業の助成を得て、図書資料の保存と修復に関する啓蒙活動の一環として、中・高校生向けセミナー「本を残す 本を伝える - 書籍の保存と修復」を 7 月 15 日（月祝）に開催した。当日は、16 名の中学生・高校生が、普段は利用者の入庫できない貴重書庫で、14 世紀に作成されたマグナ・カルタ写本やホップズ『リヴァイアサン』初版（1651 年）などを間近で見学した。また、同センター保存修復工房スタッフの指導のもと、和紙を用いた修復や、針と糸を使った製本作業に挑戦した。参加者からは「こんなに本を守るために努力がされているとは知らなかった」「古書を残すことは、ただその中身を残すことに限らず、その時代背景を知るきっかけになる大変有意義なものであると実感しました」など、書物の歴史と保存への関心を深めたことが窺える多くの感想が聞かれた。

#### 特別資料展示とパネル・ディスカッションの開催

研究成果の社会還元の一環として、10 月 22 日（火）から 11 月 1 日（金）まで、特別資料展示「ヴォルテール『リスボンの災厄についての詩』をめぐって」を行った。特別資料展示の内容については、センターのウェブページで紹介している（<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/exposition/index.html>）。また、開催を記念して、10 月 26 日（土）に、「1755 年 11 月 1 日、リスボン地震 — その思想史的意味」と題するパネル・ディスカッションを行った。パネリストは、佐々木能章（東京女子大学教授）、川出良枝（東京大学大学院教授）、加藤泰史（一橋大学大学院教授）、渡名喜庸哲（東洋大学国際哲学研究センター研究助手）の諸氏。山崎耕一（一橋大学社会科学古典資料センター教授）が司会を務めた。

#### 第 14 回西洋古典資料保存講習会

下記の内容で、7 月 3 日（水）から 7 月 5 日（金）まで 3 日間開催し、全国の国公立大学図書館等から 10 名が参加して、実習を中心に行った。

1. 保存計画のための材料と環境 増田勝彦（昭和女子大学光葉博物館顧問）
2. 劣化調査と保存計画 増田勝彦
3. 国立国会図書館における東日本大震災被災資料への対応  
村上直子（国立国会図書館収集書誌部資料保存課副主査）
4. 製本構造、調査票の活用、クリーニング、書見台、保存容器、保存製本  
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

#### 第 33 回西洋社会科学古典資料講習会

下記の内容で、11 月 6 日（水）から 11 月 8 日（金）まで 3 日間開催し、全国の国公立大学図書館・専門図書館等から 32 名が参加した。

#### 古典研究

- (1) 近代イギリス史研究とオンライン学術資料 — 18 世紀後半アメリカ独立革命期を中心にして

松園 伸（早稲田大学文学学術院教授）

(2) 18 世紀フランスの「政治経済学」と穀物取引論争

安藤裕介（立教大学法学部助教）

(3) 19 世紀ドイツ法学におけるゲルマニステン

松本尚子（上智大学法学部教授）

### 書誌学

(1) 記述書誌を“読む”面白さ — 図書館員のための書誌学入門

武者小路信和（大東文化大学文学部准教授）

(2) 洋書の姿 — 印刷と折丁

高野 彰（書誌学者）

(3) 西洋古典資料の目録作成

床井啓太郎（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

(4) 目録作成実習

福島知己（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

### 保存・修復

(1) 環境と材料 — 紙資料の保存

増田勝彦（昭和女子大学光葉博物館顧問）

(2) 西洋古典資料の修理について

岡本幸治（製本家・書籍修復家）

社会科学古典資料センター見学（書庫・所蔵資料・貴重書保存修復工房）

### 資料の脱酸処理

ベルンシュタイン＝スヴァーリン文庫について、酸性紙を用いた資料が多く含まれ、今後酸性劣化が急速に進行する懸念があるため、(株) プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパンに依頼して、同文庫のうち 217 冊について脱酸処理を行った。

### 田嶋記念大学図書館振興財団助成金

財団法人 田嶋記念大学図書館振興財団より、「一橋大学社会科学古典資料センター・附属図書館 所蔵資料公開展示事業」が平成 24 年度助成事業として採択された。助成額は 1,000 千円で、社会科学古典資料センターでは展示ケース、展示用照明設備などの整備を行った。

日誌（2013 年 1 月～ 12 月）

3 月 31 日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第 33 号発行

5 月 18 日 第 8 回一橋大学ホームカミングデー記念展示

5 月 28 日 第 14 回社会科学古典資料センター専門委員会

議題：1 平成 24 年度決算報告について

2 平成 25 年度事業計画について

- 3 平成 24 年度事業計画について
- 4 科学研究費助成事業について
- 5 田嶋記念大学図書館振興財団助成金について

7月3日～5日 第14回西洋古典資料保存講習会 開催

7月15日 ひらめき☆ときめきサイエンス「本を残す 本を伝える -書籍の保存と修復」開催

8月2日 2013 オープンキャンパス特別資料展示

10月22日～11月1日 特別資料展示「ヴォルテール『リスボンの災厄についての詩』をめぐって」開催

10月26日 パネル・ディスカッション「1755年11月1日、リスボン地震 — その思想史的意味」開催

11月6日～8日 第33回西洋社会科学古典資料講習会開催

利用状況（2013年1月～12月）

開館日数 226日

来館者数 51人

（学内）20人

（学外）31人

利用冊数 116冊

文献複写申込受理件数 30人

複写冊数 37冊